

## 6 - 13 西天生における全磁力変化 (1985年6月～1986年5月)

Geomagnetic Variation recorded at the Nishi-Amo Station during the Period  
from June, 1985 to May, 1986

京都大学防災研究所

上宝地殻変動観測所

Kamitakara Crustal Movement Observatory Disaster  
Prevention Research Institute, Kyoto University

前報<sup>1)</sup>に続き表題の期間における全磁力連続観測の結果を報告する。

図において、上段に西天性 (NAM,  $\psi = 36^{\circ} 16' 10''$  N,  $\lambda = 137^{\circ} 01' 27''$  E) 柿岡 (KAK,  $\psi = 36^{\circ} 13' 45''$  N,  $\lambda = 140^{\circ} 11' 23''$  E) 鳥取 (TOT,  $\psi = 35^{\circ} 30' 48''$  N,  $\lambda = 134^{\circ} 14' 12''$  E) の各観測点における期間中の全磁力連続記録 (日平均値) を示す。

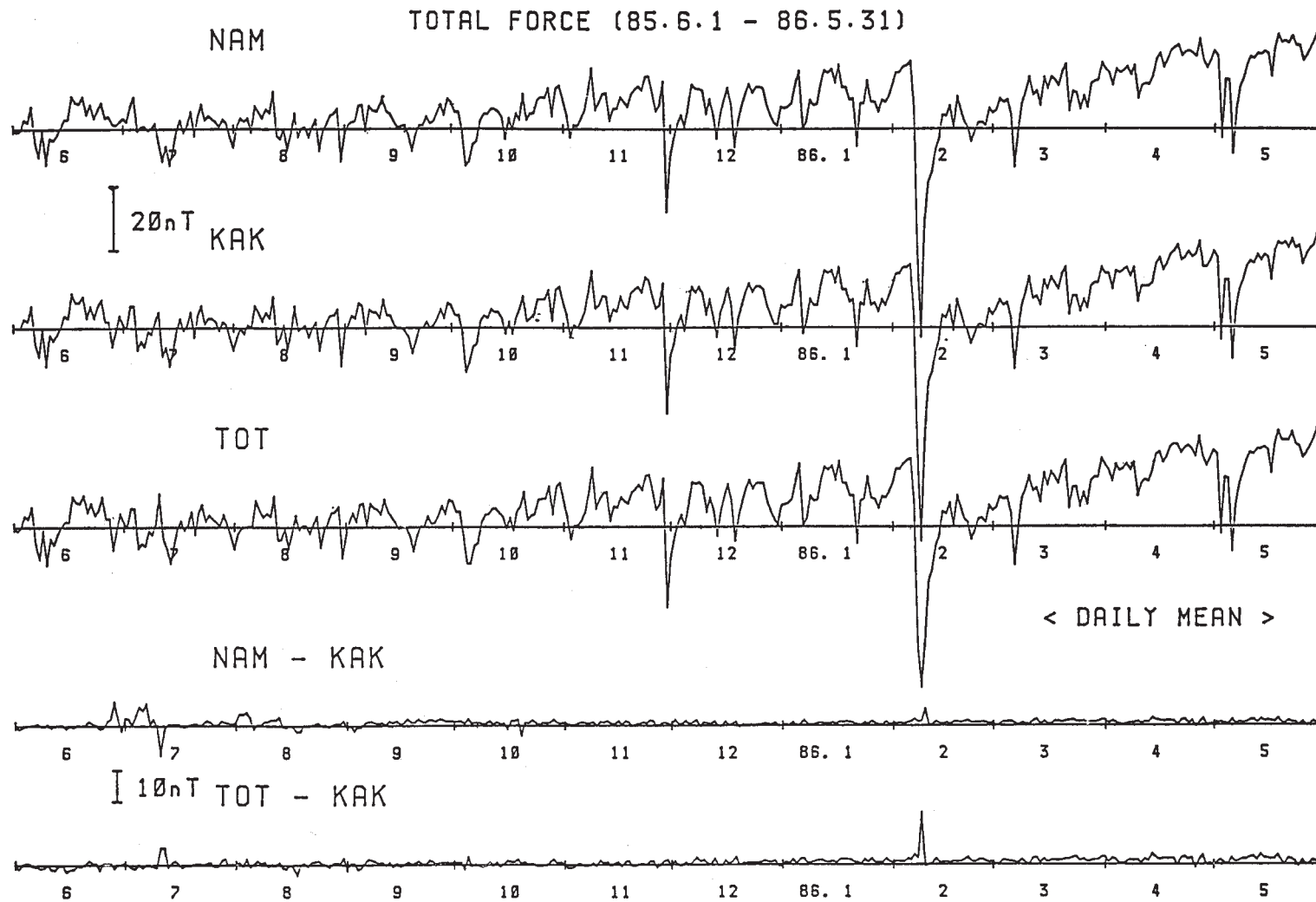
この図上段からみられるように、各観測点での記録は互によく対応しているものと思われる。なお、観測期間平均値は NAM 47067nT, KAK 46047nT, TOT 47432nT であった。(註: 訂正, 前報<sup>1)</sup>の全磁力の期間中の平均値 AMO:47083nT は 47053nT, KAK:46041nT は 46034nT)

図の下段には、柿岡を基準とした西天生、鳥取における全磁力日平均値の各地点差を示す。この図において、柿岡に対する西天生、鳥取の各月毎の平均値地点差は期間中  $\pm 1$ nT 程度の範囲内にあり、また、それぞれの観測点における期間中の平均年変化率は何れも約 12nT の増加である。

以上のようなことから勘案するとき特に西天生が異常と思われるものは認めがたい。

### 参 考 文 献

- 1) 京大防災研上宝地殻変動観測所: 西天生における全磁力変化(1984年11月～1985年8月), 地震予知連絡会会報第35巻 (1986) 403-405.



第1図 上段 西天生 (NAM), 柿岡 (KAK), 鳥取 (TOT) での全磁力日平均値変化  
 下段 柿岡に対する西天生および鳥取の全磁力日平均値変化

Fig.1 Upper: Variations of total geomagnetic intensities at three stations, Nishi-Amo, Kakioka and Tottori.  
 Lower: Differences between the total geomagnetic intensities at Nishi-Amo and Kakioka, and Tottori and Kakioka.